

病 理 学 I

授業科目名	病理学 I			担当者	石井 映幸
単位・時間	1 単位・30 時間	授業形態	講義	履修時期	1 年後期
学習目標: 疾病の要因とその成り立ちについて理解する。 症候論から見た病態を理解する。					

授 業 計 画 ・ 授 業 内 容

1	病理学とは 病気の成り立ち
2	循環障害: 体循環と肺循環 浮腫の原因 門脈循環
3	循環障害: 血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血
4	循環障害: チアノーゼ、ショックの分類、DIC
5	炎症: 炎症の徴候、発症機序
6	炎症: アレルギーの分類
7	免疫疾患: 免疫システムについて
8	免疫疾患: 膠原病について
9	代謝異常: 脂質異常症、肥満
10	代謝異常: 糖代謝異常、動脈硬化症、痛風
11	変性・壊死 萎縮・老化
12	先天異常: 先天異常と遺伝子異常
13	先天異常: 胎児異常、遺伝子異常、染色体異常
14	腫瘍: 腫瘍の発生
15	腫瘍: 良性と悪性、ステージ分類

評価方法: 3 分の 2 以上の出席は必須。ミニテスト・終講試験・レポートなどの総合評価とする。

テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学(医学書院)
 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学(医学書院)

参考文献: 疾病のなりたち(医学書院)

基礎看護学概論

授業科目名	基礎看護学概論			担当者	増田 信代
単位・時間	1 単位・30 時間	授業形態	講義	履修時期	1年前期
学習目標 看護の主要概念である人間・健康・環境(生活)・看護(活動)や歴史、理論を学び、看護に対する理解を深めることができる。また、看護職の役割と機能、看護倫理、保健医療福祉活動の現状から多様な看護の視点を検討し、自らの看護に対する姿勢を表現できる					
授 業 計 画 ・ 授 業 内 容					
1	1. 看護の概念 1) 看護とは 2) 看護の定義(目的、対象) 3) 看護実践の職業的及び法的規則				
2	2. 看護倫理				
3	1) 倫理の概念 2) 医の倫理の変遷 3) 倫理原則と看護倫理 4) インフォームドコンセント 5) ケアリング				
4	3. 看護の歴史的背景 1) 職業としての看護 2) 看護職の資格と養成に関わる制度 3) 看護職の就業状況と継続教育 4) 看護職の養成制度の課題				
5	4. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大				
6	5. 看護の対象の理解				
7	1) 人間の「こころ」と「からだ」 2) 生涯発達しつづける存在としての人間・発達課題				
8					
9	6. 人間にとっての健康 1) 健康とは 2) ウェルネス 3) 障害とは				
10	7. 国民の健康 1) 国民の健康の全体像 2) 国民のライフサイクルと健康生活 3) 現代の日本人の健康と生活				
11	8. 看護理論				
12	1) 看護理論家にみる看護の定義				
13	(1) ナイチンゲール (2) ヘンダーソン (3) オレム (4) ロイ (5) トラベルビー (6) ペプロー (7) ウィーデンバック (8) オーランド				
14	9. 看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) 看護サービス提供の場				
15	10. 保健医療福祉活動におけるチーム活動と看護職の役割 1) チーム医療(多職種と主な業務) 2) チーム活動 3) チームにおける看護師の役割 4) 継続看護				
評価 50分	3分の2以上の出席必須。筆記試験、レポート提出で100%評価				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① (医学書院) 看護覚え書き (現代社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版会) よくわかる看護者の倫理綱領(照林社)				

基礎看護学方法論 I

(看護の基本となる技術 I : 看護技術論)

授業科目名	基礎看護学方法論 I			担当者	八木 和子
単位・時間	1 単位・15 時間	授業形態	講義	履修時期	1年前期
学習目標 看護とは、日常生活において自らの力では安全や安楽を保持できない人に対し、できる限り身体的・精神的・社会的に自立して、その人らしい生活が送れるようにする技術である。 看護の対象は「人」であり、1人の対象の看護場面においても、同じ状況は2度とない。看護は対象者との相互関係の中で展開されるものであり、看護実践者としての関わり方も重要となる。この科目では、看護師としての心がけ、身だしなみ、態度について学び、自らの生活を整える必要性について理解し、今後の学習への導入としていく。					
授 業 計 画 ・ 授 業 内 容					
1	1. 看護技術とは 1) 看護技術の特徴 2) 看護技術の範囲 2) 看護技術を適切に実践するための要素 『看護基本技術』を支える態度・行為の構成要素 3) 科学的根拠に基づく看護 (EBN)				
2	2. 看護師としての身だしなみと配慮 1) 身の回りについての心がけ: 髪型・衣類・言葉遣い・表情・態度 2) 看護師の立ち居振る舞い 3) 気づきの感度 4) タッチング 5) 看護者の倫理的思考と態度: 人権の尊重・権利擁護・プライバシーの保護・情報に対する倫理的配慮				
3	3. スタンダードプリコーション (標準感染予防対策) 【演習1】 1. 看護師としての立ち居振る舞いの実際 【演習2】 2. 衛生的手洗いの実際				
4	1. 感染予防技術について 2. 看護におけるリスク管理について (安全・安楽の確保)				
5	【演習3】 3. 滅菌手袋の着脱 【演習4】 4. 無菌操作				
6	看護における観察				
7	1. 観察の内容・方法 2. ヘルスアセスメントと観察 3. 観察計画 (O-P)				
8 (45分)	看護技術とエビデンス (EBN) とまとめ 状況の判断、行為の中のリフレクション				
評価方法 : 1. 終講試験 100点 2. 演習の参加度: 演習の欠課、および演習参加態度が不適切と認めた場合、終講試験より減点対象 (-10点) となる。教育要項 p33 成績に関する規定第3条 (科目の評価方法) を参照。					
テキスト : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 看護覚え書き (現代社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)					

母性看護学方法論 I

授業科目名	母性看護学方法論 I			担当者	北川 悦子
単位・時間	1 単位・30 時間	授業形態	講義	履修時期	2年前期
学習目標					
正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過を理解し、妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護を学ぶ					
授業計画・授業内容					
1	妊娠期の看護:妊娠の成立と胎児発育 胎児付属物 胎児循環				
2	妊娠期の看護:妊娠に伴う母体の生理的变化 生殖器における変化 全身の変化				
3	妊娠期の看護:妊婦の心理・社会的サポート 妊婦健康診査				
4	妊娠期の看護:妊婦の保健指導 GW(妊娠各期の保健指導)				
5	妊娠期の看護:妊婦の保健指導 GW 発表(ロールプレイング)				
6	分娩期の看護:分娩の三要素 分娩経過				
7	分娩期の看護:分娩各期の看護 産痛と産婦の心理				
8	分娩期の看護:分娩各期の看護				
9	産褥期の看護:産褥期の生理的变化				
10	産褥期の看護:褥婦の心理・家族の心理・社会的支援 褥婦のアセスメント				
11	産褥期の看護:褥婦と家族の看護 子宮復古・母乳促進・育児技術への援助				
12	演習:レオポルド触診法 胎児回旋 子宮底の観察 妊婦体験				
13	新生児期の看護:新生児の生理的变化				
14	新生児期の看護:出生直後のアセスメントとケア				
15	新生児期の看護:移行期・退院までのアセスメントとケア 母子相互作用				
評価方法					
ミニテスト・終講試験・レポートなどの総合評価とする。					
テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院)					
参考文献:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 (医学書院)					

精神看護学方法論Ⅱ

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ			担当者	小原 良之
単位・時間	1単位・30時間	授業形態	講義	履修時期	2年後期
学習目標:					
1. 精神看護学の実践における原則が理解できる。					
2. 病院での個別性のある精神看護の実践を理解できる。					
授 業 計 画 ・ 授 業 内 容					
1	授業オリエンテーション 1)精神障害と看護 2)精神科における看護観				
2	ペプロウ発達モデル				
3	1)ペプロウ発達モデルの概要 2)ペプロウ発達モデルの適応 3)ペプロウ発達モデルの評価				
4	ケアの人間関係				
5	1)ケアの前提・原則 2)ケアの方法 3)患者-看護師における感情体験 4)対処のむずかしい場面 5)医療の場のダイナミクス				
6	回復を助ける(リカバリー)				
7	1)回復の意味 2)精神科におけるリハビリテーション 3)回復のビジョン 4)回復を支えるさまざまなプログラム 5)回復を支える社会の構築				
8	入院治療の目的と意味 1)患者にとっての入院体験 2)入院の目的 3)入院時のアセスメント				
9	治療的環境を作る 1)治療と環境 2)日本の精神科病棟と病棟の特徴 3)治療的環境の要件 4)治療的雰囲気をつくつもの 5)治療共同体 6)治療的環境と看護師				
10	安全をまもる				
11	1)リスクマネジメントの考え方と方法 2)安全の条件 3)リスクマネジメントと行動制限 4)緊急事態に対する対処(自殺 暴力 無断離院) 5)緊急事態とスタッフのサポート 6)院内を中心とした災害時のケア				
12	オレム-アンダーウッドのセルフケア理論				
13	身体をケアする				
14	1)精神科における身体のケア 2)身体にあらわれる心の痛み 3)精神科における身体のケアの実際 4)睡眠の援助				
15	サバイバーとしての患者とそのケア 1)受け入れがたい行動を示す患者たち 2)心的外傷への着目 3)回復への道程				
評価方法: 終講テスト・レポートなどの総合評価とする。					
テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 精神看護学の基礎① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 精神看護学の展開② (医学書院)					

在宅看護論方法論Ⅲ

授業科目名	在宅看護論方法論Ⅲ			担当者	川北 千鶴
単位・時間	1 単位・15 時間	授業形態	講義	履修時期	2年後期
<p>学習目標</p> <p style="padding-left: 20px;">在宅看護の事例を通して利用者、家族への看護への理解を深め、看護過程の展開方法を学ぶ。</p>					
授 業 計 画 ・ 授 業 内 容					
1	1. 在宅看護過程の展開について 1)在宅看護における対象の理解 2)疾患の理解 3)事例紹介				
2	2. 在宅看護の事例展開 ① 1)情報の整理 2)ICF関連図 3)療養環境関連図				
3	3. 在宅看護の事例展開 ② 事例のアセスメント				
4	4. 在宅看護の事例展開 ③ 事例のアセスメント				
5	5. 在宅看護の事例展開 ④ 事例のアセスメント				
6	6. 在宅看護の事例展開 ⑤ 看護計画の立案				
7	7. 在宅看護の事例展開 ⑥ SOAP の記載 ・ 看護計画の評価、修正				
8	8. 在宅看護過程のまとめ (45分)				
評価方法:3分の2以上の出席は必須、終講時試験、課題や提出物の内容、授業参加態度などの総合評価とする。					
テキスト:系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 系統看護学講座 老年看護学 (医学書院) 看護診断ハンドブック (医学書院)					

小児看護学概論

授業科目名	小児看護学概論			担当者	村上 ヒトミ(1、13～15) 石井 淳子(2～12)
単位・時間	1 単位・30 時間	授業形態	講義	履修時期	1 年後期
学習目標 健康な小児各期の特徴を理解し、発達段階に応じた養護、小児を取り巻く環境、家庭や社会が及ぼす影響について学ぶ。					
授 業 計 画 ・ 授 業 内 容					
1	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護の変遷 4. 小児看護における倫理 5. 小児看護の課題				
2 3	5. 小児の成長・発達 1) 成長と発達 2) 発達の領域 3) 成長発達のすすみ方 4) 成長発達に影響する因子 5) 成長の評価				
4 5 6 7 8 9 10	6. 小児の成長と発達 1) 新生児期・乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期・青年期 7. 小児の栄養				
11 12	8. 小児の遊び 9. 基本的生活習慣としつけ				
13 14	10. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 児童憲章 2) 児童福祉 3) 虐待防止 4) 母子保健 5) 医療費の支援 6) 予防接種 7) 学校保健 8) 特別支援教育 9) 臓器移植法				
15	11. 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとっての家族とは 2) 家族アセスメント				
評価方法: 終講試験、レポート、グループワークの参加・態度などの総合評価とする。					
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 (医学書院) 看護のための人間発達学 (医学書院) 国民衛生の動向					

成人看護学方法論 I

(生涯にわたり疾患のコントロールを必要とする人の看護)

授業科目名	成人看護学方法論 I			担当者	高橋 綾子
単位・時間	1単位・30時間	授業形態	講義	履修時期	2年前期
学習目標 生涯コントロールを必要とする慢性疾患(COPD、糖尿病、慢性腎不全)が成人期の日常生活にどのように影響するかを理解し、疾患と一生涯にわたって共存する成人期にある人および家族に対する看護について学ぶ。 また慢性腎不全については紙上事例を用いて看護過程の展開を学ぶ。					
授 業 内 容					
1	1. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)のある対象の看護				
2	1) 病態、検査(検査時の看護)				
3	2) 呼吸機能障害を持ちながら生活する人の看護(日常生活の生活指導)				
4	2. 糖尿病のある対象の看護				
	1) 糖代謝に障害のある対象の理解				
	2) 症状コントロール状態とアセスメント				
5	3) 検査をうける対象の看護 (OGTT、SMBG)				
6	4) 治療をうける対象の看護 (食事療法・運動療法・薬物療法)				
	5) 糖代謝機能障害を持ちながら生活する人の看護				
	(1) セルフケア確立への援助				
	(2) 急性合併症への対応(低血糖・昏睡・感染)				
7	3. 腎不全のある対象の看護				
	1) 急性腎不全と慢性腎不全				
	2) 病期分類と特徴				
8	3) 慢性腎不全の病態の理解～尿毒症が発生するメカニズム				
	4) 血液透析を受ける患者の看護 5) 腹膜灌流を受ける患者の看護 6) 腎移植				
9	4. 紙上事例 看護過程演習				
	1) オリエンテーション 2) フェイスシートの記入(病態と発達段階の特徴)				
10	3) 情報の分類 4) アセスメント ①健康知覚・健康管理 グループワーク、発表				
11	5) アセスメント② 栄養・代謝、排泄、グループワーク				
12	5) アセスメント② 活動・運動、認知・知覚ストレス・コーピング、グループワーク				
13	6) アセスメント③ 自己知覚・自己概念 役割・関係、グループワーク				
14	7) 関連図 問題の明確化(看護診断) グループワーク				
15	8) 看護計画・評価 (SOAP 記載、看護目標、短期目標評価)				
学習上の留意点: 解剖生理学、病理学を復習し、知識の整理をして授業に臨むこと。 基礎看護学方法論Vで学んだ看護過程について復習しておくこと。					
評価 (50分)	方法: 3分の2以上の出席は必須、終講テスト(40点)・看護過程(60点)評価により総合評価とする。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2) 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(6) 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(8) 腎・泌尿器 (医学書院) 糖尿病食事療法のための食品交換表 (文光堂) 看護のための人間発達学(医学書院) 看護診断ハンドブック 第11版 (医学書院) 看護過程に沿った対象看護(学研) ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める (南江堂)				

老年看護学方法論Ⅱ

授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ			担当者	野澤 愛
単位・時間	1 単位・15 時間	授業形態	講義	履修時期	2 年後期
<p>学習目標</p> <p>老年期にある人が生活者として、自立生活の拡大に向けて取り組む行動に焦点を当てることは老年看護を展開するうえで基本的に必要な事である。そのため本科目では、老年看護援助の基本とフィジカルアセスメント、老年者の主要な疾患及び症状に関する知識とケアの技法を習得し、老年看護の原理と原則について理解を深める</p>					
授 業 計 画 ・ 授 業 内 容					
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群の看護				
2	認知症のある対象の看護				
3	①認知症とは ②認知症の基本構造 ③認知症の診断・治療と予防 ④認知症の評価 ⑤看護の実際				
4	高齢者を対象とした看護過程の展開(事例提供)・大腿骨頸部骨折後の看護(認知機能低下含む)				
5	①ゴードンの機能的健康パターンの解釈				
6	②関連図				
7	③解釈した項目から看護計画立案				
8	看護過程のまとめ				
<p>評価方法：出席状況、筆記試験 40 点、看護過程 60 点</p>					
<p>テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)</p>					